

会議録

会議の名称	西東京市立学校給食運営審議会（第1回）
開催日時	令和3年11月1日（月）午後2時30分から午後3時42分
開催場所	田無第二庁舎4階会議室
出席者	（委員）高野会長、鈴木副会長、新出委員、石井委員・菊池委員・伊藤委員・小貫委員・齋藤委員・湯澤委員・竹之内委員・依田委員・高橋委員・門馬委員・渡辺委員・根本委員 （欠席）辻委員 （事務局）木村教育長・大谷学務課長・工藤保健給食係長・近藤・石部
議題等	<議題> 1 会長及び副会長の互選等について 2 学校給食について 3 その他
会議資料の名称	1 西東京市立学校給食運営審議会委員名簿 2 西東京市立学校給食運営審議会条例 3 西東京市立学校給食運営審議会条例施行規則 4 西東京市立学校給食運営審議会傍聴要領 5 西東京市立学校給食の実施及び管理運営に関する規程 6 西東京市の学校給食についての概要 7 西東京市立学校給食運営審議会答申等一覧
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会議内容	
<ul style="list-style-type: none"> ・教育長挨拶 ・教育長より委嘱状及び任命書交付 ・委員自己紹介 ・事務局自己紹介 ・西東京市立学校給食運営審議会の所掌事務等の確認 <p style="margin-left: 40px;">委員定数16名、出席委員15名で過半数に達しているため、本審議会の成立を確認</p> <p>議題1 会長及び副会長の互選等について</p> <p>(1) 会長及び副会長互選</p> <p style="margin-left: 40px;">西東京市立学校給食運営審議会条例第5条第2項に基づき、委員より会長及び副会長を選出</p> <p style="margin-left: 80px;">会長については、事務局より学識経験者の高野委員の推薦を受け、出席委員全員の同意により選出された。</p> <p style="margin-left: 80px;">副会長については、会長より学校長代表の鈴木委員の推薦を受け、出席委員全員の同意により選出された。</p> <p>(2) 西東京市立学校給食運営審議会会議録について</p> <p style="margin-left: 40px;">西東京市立学校給食運営審議会条例施行規則第4条及び西東京市市民参加条例施行規則第4条に基づき、会議録の作成、会議録の作成方法について確認</p> <p style="margin-left: 40px;">出席委員全員の同意により、発言者の発言内容ごとの要点記録とすることとし</p>	

た。

(3) 西東京市立学校給食運営審議会傍聴について

西東京市立学校給食運営審議会傍聴要領第2の規定により、会議会場の広さ等を勘案し、出席委員全員の同意により傍聴人の定員を5名程度と決定した。

(4) 西東京市の学校給食の概要

事務局より、学校給食についての概要、今後の課題（ひばりが丘中学校の自校式給食の検証及び親子給食の組み合わせの変更に関する検証）について説明を行った。

議題2 学校給食について

○会長 この審議会は、教育委員会に対して意見を述べる立場にあり、教育委員会から提示された課題が話題の中心になることと思う。

学校給食に対する思いや日頃感じていることを一言ずつ話してほしい。

○委員 けやき小学校に子が在籍している。自分も給食が大好きで、教育実習の最後に食べた冷凍リンゴが忘れられない。子に給食について聞いたところ、黙食をしていると聞いた。食事は何を食べるかではなく、誰と食べるのか、またその場の雰囲気的大事だと考えているため、子どもたちには以前のような状況を取り戻してほしいと強く思っている。

○委員 上向台小学校に子が在籍している。子が幼いころに食物アレルギーがあり、給食に興味をもった。子の入学時に「西東京市学校給食食品購入安全基準」を知り、安心して給食を食べさせることができると思った。西東京市の学校給食は、メニューも豊富で、栄養士が趣向を凝らしており、そうしたことを他の保護者や市民にも広く知ってほしいと考えている。

○委員 谷戸小学校に子が在籍している。9月に実施されたオンライン授業の際にも給食が提供されたことは、子のストレス解消になり、子の気持ちにも良かったと思う。食材の購入に際してもしっかりとした基準があり、それを毎日食べられることに感謝している。現在、給食に野菜を納入している農家でボランティアをしており農家の苦労を知った。昭和50年から地産地消の取組が始まったとのことだが、進みが遅いと感じる。また、黙食については残念に感じており、楽しい食事が子どもたちに戻ってほしいと思っている。

○委員 田無小学校に子が在籍している。子の献立表を見たところ、昔の献立の再現（クジラの竜田揚げ等）があり、給食に興味をもった。給食を通して様々なことが学べる環境の子どもたちがうらやましいと思う。オンライン授業の際、自分の子は、友達に会えることや給食が食べられることを喜んでいて、これから意見を出したり、給食のことを伝えたりする機会を持つことがありがたいと感じている。

○委員 田無第一中学校に子が在籍している。他の学校の給食を見ることができると楽しみである。衛生管理や食材の選定に興味がある。

○委員 田無第三中学校とけやき小学校に子が在籍している。子に食物アレルギーがあり、給食についても学校に協力してもらいながら過ごしている。食物アレルギーに興味があるので勉強したいと思っている。

○委員 保谷中学校、柳沢中学校、東伏見小学校に子が在籍している。給食の献立は、栄養が考えられて、かつ家庭では作れないようなメニューがあり、子は給食を楽しみに学校に通っている。好きなメニューの日は全てなくなるが、人気のないメニューの日は残ってしまうことがあるようなので、無駄が出ないような案が出せたらと思っている。

○委員 大学院の修士課程では、学校保健学研究室で健康づくりを、大学院の後期博士

課程では、臨床栄養医学で健康づくりを学んでいた。20年近く前、西東京市のマタニティ講座の中のメンタルヘルス講座に関わったことをきっかけに、市の食育プランや健康づくりのプランニングに関わり、その後、親子給食開始前からこの審議会の委員となった。現在は、女子栄養大学の栄養科学研究所の客員研究員もしながら、いくつかの大学で保健医療専門職を養成している。日頃、大学生に対しては、小中学校できちんと食べることを学んでほしいと思っているが、そうした意味で西東京市の給食は、本当においしくすごいと思うことが多い。いろいろな知識を用いながら、この審議会の役に立ちたいと考えている。

- 委員 多くの子どもにとって給食は楽しみな時間であると、どの学校にいても思っている。ただ、一定数の子どもにとっては辛い時間になっていることもある、と感じている。担任として、少しでも多くの子どもが、給食が楽しい時間になるよう、色々な意見を参考に、食育の授業をしたり栄養士の工夫を伝えたりして、担任としてできることをやっていきたいと考えている。
- 委員 本日の給食の献立に、紫蘇ご飯とおからがあったが、紫蘇ご飯は大盛にするのに、おからはなんだかわからないので半分にしてほしいと生徒から言われた。おからに馴染みがない生徒に、大豆を絞ったものであり、ジャパニーズプロテインだと伝えたところである。そうした日々の積み重ねが子どもの将来につながるのかと考えている。オンライン授業期間中は出席者が少ないときもあり、給食が余っている様子もあった。久々に全員が集まったときには、黙食ではあるがみんなで食べる給食のおいしさや、温かいご飯のおいしさを感じ、給食がなくなって初めてありがたさを感じたのではないかと思う。
- 委員 谷戸小学校で栄養士をしている。谷戸小学校は田無第二中学校に給食を提供しているが、4月からは田無第三中学校に切り替わるため、準備を始めるところである。谷戸小学校の大変なところは、田無第二中学校も田無第三中学校も、谷戸小学校から進学する生徒がほとんどいないところである。学校ごとに献立が違い、それぞれに好まれる献立や味付けがあると思うが、これまで経験していない学校の給食が届くということで、思春期の色々な好みが出てきた子どもにどうしたら食べてもらえるかと日々悩んでいる。楽しく、美味しく食べてもらうことが一番なので、中学校の栄養士とも連携し、献立の工夫をしていきたいと思う。コロナで試食会もできていない中、保護者の意見を聞く機会がないため、この審議会は貴重な場だと思っている。
- 委員 ひばりが丘中学校で栄養士をしている。10年以上小学校で栄養士をしていて、初めて中学校の献立をたてることになった。小学校で提供していたものを、どうしたら中学生向きのメニューになるのかを考えながら献立をたてている。小学校と中学校では、エネルギー量をはじめとする必要な栄養量が大幅に上がるため、それを満たすことに苦戦している。実態を見ていると、例えばご飯の量は180gが標準だが、大盛りになっている子どももいるが、平均してみると量が多いと感じている。子どもに好まれるメニューであれば完食しているが、そうでないメニューのときは残りがちである。子どもの喫食の様子を毎日確認できることが、学校に栄養士がいる良さだと思うので、栄養価にとらわれ過ぎず、バランスを取りながら指導していきたいと考えている。
- 副会長 給食が大好きで、担任時代、自分のクラスは完食し続けてきた自信もある。今は黙食のためできないが、担任時代には、順番に児童の班に交じって美味しそうに食べ、おかわりもする、ということをしてきた。おいしいものをおいしいと食べることは恥ずかしいことではないと伝わり、競い合っておかわりをするようになった。給食は不思議な力があり、日本が世界に誇れるものだだと確信している。所属校では、栄養士が毎日給食に関する手紙を書いており、野菜を納品した農家を紹介している。担任はこれを必ず紹介することになっていて、給食は教材にもなっている。社会科の授業では、給食に野菜を納品している農家をゲストティーチャーに招き、話をしてい

ただいた。生産者の顔がわかると子どもたちの気持ちや意識も変わって、食について考えるきっかけになると思っている。その農家は、社会科の副読本にも掲載されているのでつながりが生まれており、食を通して子どもの関係性や人とのかかわりが豊かになればよいと思っている。

- 会長 現職を退いて2年半たつが、困っているのは3食の食事を考えることである。親の立場や色々なことを鑑みて、給食は素敵だと思っている。時代は変わっていくが、西東京市の給食がいい方向で提供できればと思っている。今後は、ひばりが丘中学校の自校式給食の検証や親子給食の組み合わせの変更に関する検証ということがあるので、当該校の方だけでなく、同じ市内に住む者として意見を出し合い有意義な審議にしたいと考えている。

議題3 その他

- 会長 その他に意見はあるか。
 次回の予定を報告してほしい。
- 事務局 次回は、1月に親子給食の見学と試食を計画したい。詳細は別途通知する。

閉会

- 会長 本日の会議を散会する。